

で、特に四四%と高齢化率が高い上野台団地の対策は。
答 地域包括支援センターの職員を一名増員し、見守りに当たっています。建設される特養ホームの交流スペースにも期待しています。

認知症対策

問 堀口 予想を超えて認知症の方が増えている。ご家族の方を含めて地域で支えるシステムが必要。取り組みは。
答 認知症の人と家族を見守り、応援者となることが期待されている。「認知症サポーター」を養成しています。現在、市内のサポーター数は四二五名です。

地域福祉に係る相談窓口について

問 小林 地域福祉を根づかせるために、気楽に相談できる地域の拠点を。
答 どういう場所や形で相談体制をつくっていくのか、また市民の方が相談しやすいのか、地域として活動しやすいのかなど検討をしていきます。

解体予定建物を提供してより実践的な訓練を

問 島田 解体予定の公共施設があるが、消防組合が建物を破壊しながら行う実践的な

都市整備

関越道西側地域の雨水対策

問 堀口 一旦雨水をため置く貯留浸透施設の設置が、当面の解決策であることはこれまでの議会質疑で明らかになっている。具体的な進捗は。
答 この地域の浸水被害を解消するには、砂川堀雨水幹線整備が抜本的な解決策ですが、工事費が約一〇〇億円以上、さらに整備期間も長期にわたることから事業が進められない状況にあります。被害を少しでも軽減させるために、雨水対策検討委員会を設置して検討していきます。

時速三〇キロ制限区域の導入

問 新井 市役所県道西側、

地域包括支援センターについて

問 西 委託型の市内四カ所の地域包括支援センターの活動内容の把握と連携は。また、今後の利用対象者増への対応は。
答 連絡会議を開催し活動内容の把握と、情報の伝達や共有により連携を図っています。利用増加に対しては、圏域の見直しが考えられます。

介護職のイメージアップを

問 堀口 働きに見合った処遇改善を求めるあまり、厳しさが強調され、介護職本来の「尊い仕事である」ということの理解が薄らいでいるのではないかと。
答 消防組合からも場所や情報提供してほしいとの要望があり、相互に連携強化を図ります。

救助訓練のために提供してはどうか。
答 消防組合からも場所や情報提供してほしいとの要望があり、相互に連携強化を図ります。

駒林地域の交通安全

問 足立 ヤオコー上福岡駒林店北側県道の歩道整備の年度内実施を、県に要請すべき。
答 県に、早い実施を求めます。

問 駒西小学校から県道までの歩道は、一方が狭くなっている。歩道の安全確保をするため、県道に接する部分の工事は早い実施を。



ふじみ野市役所第2庁舎にある地域包括支援センター

問 高齡化が一段と進む中、介護職の方々なしに安心の老後はありません。処遇改善に努めつつ、介護や介護職への理解を高められるような取り組みについて検討していきます。

コミュニティ・ソーシャルワーカー配置を

問 鈴木 障がい者を養育する高齡の親が要介護状態になるなど、既存の制度では対応しきれない複合的な困難を抱えている世帯をどのように支援するのか。
答 各担当部門の協力に対応していますが、策定中の地域福祉計画で重点課題と捉え、総合的な福祉相談やコミュニティ・ソーシャルワーカーの配置を含めた支援の仕組みづくりに取り組んでいきたい

問 安全な歩行空間確保に努力します。
答 安全な歩行空間確保に努力します。

駒西小学校通学路の安全対策が前進

問 伊藤美 今回一部拡幅となるが、安全の確保と今後の整備計画は。
答 来年度に暫定的な歩道を整備し、安全に通行ができるようにします。また、ヤオコー上福岡駒林店前交差点までの区間については、周辺の方へ説明し、ご理解をいただいでいきたいと思ひます。



対策が進む富士見台交差点

生活保護担当職員の負担軽減を

問 鈴木 生活保護、障がい福祉の担当ケースワーカーが忙しすぎないか。

総合防災訓練への全市民参加を目指して

問 島田 十二月二日の第一回総合防災訓練へ、一人でも多く、幅広い年齢層に参加してもらうための周知は。
答 タウンミーティングでの周知や、学校、幼稚園、保育所、各団体への呼びかけ、市報ホームページなどの活用を図ります。特に市報十一月号では特集を組み、細かい内容についてもお知らせします。

災害に強いふじみ野市を

問 岸川 地域を守る自主防災組織に、防災士等のリーダーの育成と配置を。

変則的で危険な富士見台交差点の対策を

問 伊藤美 交差点がクラックになっており、上り坂で自動車立ち往生するなど危険。停止線で止まらずに直進する自動車もあるため対策を。
答 交差点のカラー舗装と交差する二カ所に自発光鏡を設置し、対向車注意の看板も設置します。

福岡中学校前の歩道整備を

問 山田 都市計画マスタープランで位置づけられている福岡中学校前の市道第六一九

防 災

問 生活保護等の利用者が増加して、担当件数が法定する基準より増えています。専門職の採用を進め、地域の方の協力を請うなどして、必要な支援を怠ることがないよう努めています。

問 県とも連携し、広く全国的な防災リーダーの育成に努めます。

問 児童生徒や高齢者に防災教育を。

問 研修会や防災訓練を積極的に、子どもたちへの防災教育を進めていきます。

消火栓と貯水槽の充実と管理を

問 塚越 消火栓と貯水槽の充実及び管理と帰属の明確化を。

問 火災延焼防止に必要な整備については、消防法に基づく消防水利基準で整備を進めています。管理と帰属の関係は、消防組合と確認します。

大井西中学校周辺の安全対策

問 伊藤初 大井西中学校東門の一方通行路に歩道を整備できないか。
答 歩道整備ができるか検討していきたいと考えています。スクールゾーン指定の道路ですので



安全対策が待たれる大井西中学校通学路